

第3回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成18年2月17日(金) 午後1時30分～4時25分
会 場 松嶺公民館

出席者

1号委員	菅原 功	富樫 茂	阿部 茂	寒河江 久也	小田 和夫
	齋藤 尚	佐藤 ゆき子	今田 充代	須田 良	
2号委員	山中 俊	土田 迪子	齊藤 薫		
3号委員	佐藤 洋子	遠田 聡	木村 美津江		

松山総合支所 支所長 平向 與志雄 地域振興課長 後藤 吉史 建設課長 川田 進
産業課長 新館 篤 教育振興室長 莊司 東一 市民福祉課市民主査 田村三重子
地域振興課 地域振主査 阿部 みえ 主事 佐藤 伸 主事 富樫 功紀
企画調整部 企画調整課 地域振興室地域振興主査 遠藤 裕一

議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1)平成18年度地域づくり予算について
 - (2)地域振興に関する意見交換
- 4 閉 会

1 開会・・・進行（地域振興課長）が開会する。

2 あいさつ

（会長）

今回は内示のあった平成18年度の予算について資料に基づいて協議を行っていく。前回同様に積極的な意見をいただきたい。

（支所長）

毎月のように会議を開催していただき感謝している。

雪の状況はおちついたが、除雪費は松山町として見てみると当初予算2,200万円から約4,400万円と倍になった。毎年このようになるのかと心配される。

3月議会が今月22日から約1か月間開催され予算等の審議が行われる。

3 協議・・・会長がこれより議長を務める。

（1）平成18年度地域づくり予算について・・・事務局説明の後質疑

議長 意見、質問などないか。

委員 地域づくり予算に限らず、この地域に関係する予算はどうなっているのか。これまでの松山町の総合計画は新酒田市の計画へ引き継がれたのか。完了した部分はどこまでなのか。など見えない。これまではきちんと事業評価されてこなかった。社会教育委員の会合に出席したが、ものごとの考え方が旧酒田市のようだ。これまでの経過などがあるようだが、事業評価等を把握していなければ同じレベルでは飲み込めない内容だった。松山地域として諦めムードでは困るのでしっかり対応していく必要がある。

事務局 総合計画の事業内容については新市建設計画に網羅されている。平成18年度事業では、ハード事業についてはほぼ満額予定された。ソフト事業については市で一本になるものもある。で見えない部分もあるが、事業評価については、町として十分に取り組んできたとはいえないかもしれない。

委員 地域づくり予算の事業は、他地域と比較して割合などはどんな状況なのか。

事務局 ほぼ横並びと考える。地域によって多少特色はあるが。（他2地域の事業内容を紹介）

委員 中学生のアメリカ派遣事業は松山地域だけか。

事務局 新市全体としては「はばたき」事業がある。旧松山町の事業と合体できないか検討した経過もあるが、事業の性格が違うため（松山は隔年の相互交流事業）別立てとしたものだ。規模は、松山事業は7から8名の参加だが、酒田市全体の事業は20名程度になる。将来的には1本化が検討されることになると思う。

委員 平成18年度すでに決まってしまった予算なので今更議論のしようがないのではないかと議論の方向性が違うと考える。

議長 18年度は時間的制約があり事前の議論ができなかったということだが、年度途中でも補正予算対応で事業ができるようであればまた違ってくるが。

事務局 補正対応はできないということではないが、事業の性格から事業費の補正は難しいのではないかと考える。

委員 花いっぱい事業があるが、花植などは自治会での共同作業として取り組みやすいので推進すべきだ。行政の施設は委託事業で行い、その他については市民が有料で行うのはおかしい。市民の生活環境の為の事業としては同じなので区別を無くした方がよい。委託費を抑えて花苗などを自治会等に配布するように検討したらどうか。

委員 眺海の森周辺は美化管理もしっかりしていてきれいだが、松山地域の入り口となるニュートラックまつやま前の交通島は荒れたままで非常に見苦しい。植栽等を検討してもらいたい。

委員 旧酒田市では散水車で花壇に水撒きをしている。ボランティアで行うというのが高齢者が水を運び草むしりをするのは大変なことだ。せめて散水車が利用できるのであれば長続きするのではないか。特にニュートラックまつやまあたりだと水利がない。

委員 国体の時には各家庭にプランターを置いてそれぞれが管理したこともある。これからは住民の協力が重要となるが、この事業は無くしたくない事業である。

委員 上堰（松嶺地内）に架かっているコンクリートのプランターが除雪された雪の溜め場所になり視界を遮って危険な状況だ。この花壇は必要なのか検討する必要があるのではないか。

事務局 植栽管理は地域での取り組みに変わりつつある流れにある。行政でやるとすべて行政任せになる傾向がある。上堰の花壇については除雪サイドでも配慮してきた。

我が地域でせっかくここまで盛り上がってきた花いっぱい事業なのでよく協議して検討する必要がある。また、都市計画課の事業として市民が緑化ボランティア活動する際に助成する制度があるので活用願いたい。自治会での登録も可能だ。

委員 地域づくり予算では、地域活性化事業、地域振興支援事業など商工会を支援する事業があるが農業面に支援する対応はないのか。

事務局 平成19年度から始まる集落営農事業のメニューに環境整備事業があるので、今後詳細は説明したい。酒田市ではグリーンツーリズムの組織が立ち上がったのでその中で地産地消の拡大など農業面の政策が話し合われ関係予算などもそこに措置されている。

委員 農産物産直施設が他地域にはあるが松山地域にはない。必要と考えるが今後設置する予定はあるのか。

事務局 各地域の産直施設はそれぞれスタイルが違う。当地域でも民間でやっている「さくら」がある。また、眺海の森には「ぐるぐるグリーン」があるが業者から仕入れて販売する物が多くあり、今後更に地元のを販売する工夫が課題だ。

委員 農家が励みをもてる政策が少ないと思う。意欲のある農家をどう受け止めるかだ。

委員 観光客の呼び込みと地元産物の販売を伸ばすには手法を考えることだ。

眺海の森を訪れた人は皆感動する。とても恵まれた観光資源だ。バスツアーなどの情報を把握し、それに対応する準備も必要だ。酒田夢の倶楽には年間70万人が訪れるという。その観光客を旧3町地域にも流したいと市長は言っている。それに乗るような手法を考えることが必要ではないか。

事務局 まず団体客は酒田に来ていただきオプションツアーで松山にも小グループで来てもらう。その際おいしい食べ物を提供し、おみやげとして地場産品を買ってもらう事も必要と考えている。商工と観光と農業の一体化だ。

委員 眺海の森「さんさん」で地場の食材を使った物を食べてもらい、米や枝豆などを買って

いただくのもよい方法ではないか。

委員 産直施設が数か所あるが平田の「めんたま畑」が一番だ。生活に密着した必要なものが安く良い品質で販売されている。立地条件も良い。松山の人もよく見かける。それに匹敵するのが櫛引の「あぐり」だ。松山にもあれば便利だろうが農家では販売するほどの量は作っていないという声も聞かれる。

休憩（15：09～15：18）

（2）地域振興に関する意見交換

委員 平成18年度予算では合併特例債や県からの合併交付金は活用しているのか。

事務局 過疎債等有利な起債を優先しているので予算上は合併特例債は見込んでいない。市全体の予算については現段階では把握し切れていない面もある。

委員 この地域で一番大切と考えるのが青少年のボランティアサークル活動だ。小学校高学年から中学校までは活動が見えるが、高校生になると途端に連携が取れなくなりひとり欠け二人欠けで自然消滅するのを何度か見てきた経験がある。土台となるものがこの地域では希薄だ。子どもの数が減っていく中でどうすればよいのか思案している。

委員 ボランティアサークル活動は重要と考える。松山地域は活発ではなかった。地域密着型、学校型とあるが、地域密着型だとリーダーとなる人がいないとなかなか難しい。

事務局 現在も中学校には校内サークルとして活動しているものがある。県立里仁館高校があった頃は、日赤の支援を受けJRCとしてボランティア活動サークルがあった。地域ボランティアは育っていなかったが平成15年度に県から社会教育主事の派遣を受けたことを契機に中学生のボランティアサークルを結成し、毎月定例会を開催し、夏まつりや福祉施設でのボランティア活動を行ってきた。高校生では、酒田市のサークル「かざみどり」に参加して活動している人もいるようだ。これには側面から支援していきたいと考えている。

また、生涯学習施設「里仁館」の講座でも取り上げていただきたいと要請している。

委員 ボランティアは青少年がターゲットになっているようだが、高齢者と一緒に活動することも考えられないか。

委員 子どもの気持ちの中には、高校生になると地域から縛られたくない自由にしてほしいということがあるのではないか。部活に専念したり新しい友達をつくったりと地域から巣立っていきたいものだ。期待できるのは中学生までではないのか。いずれにしてもある程度大人が関わっていないとうまくいかないと思う。

委員 青少年に限らず、市内にはボランティアサークルがたくさんある。活動内容によっては最高で30万円の支援が市からあり14団体でもらっているはずだ。高齢者はボランティア活動をやっているのだが中間層が少ないようだ。

委員 中間層もそれなりに頑張っているのだが、子育てなど生活に追われてなかなか容易でないのだ。

委員 地区でボランティアサークルをつくって活動している。ボランティアも苦痛を感じるようではボランティアではない。他にもボランティア活動に参加しているが行くときは辛いと思

うことがあるが、行ってみて帰ると参加して良かったなあと思う。

会 長 高尚な話題となったがこのへんで次の話に移る。

(3) その他

・酒田市全体の予算について・・・事務局が主な事業等を資料に基づき説明する。

委 員 今年の大雪の被害では、隣家の屋根の雪崩がガラス窓を突き破って屋内に侵入し大変な被害を被ったことや私道に隣家の屋根の雪崩が大量に一気に落下し運が悪ければ人が傷つく恐れがあったことなど聞いている。それら大雪の被害について支援するような措置の検討をお願いしたい。

事務局 事実は承知している。

委 員 除排雪費に多額の経費をかけたようだが、私の住む町内会では、ボランティアが水路から道路側溝に水を流し消雪して道幅を確保している。消雪水の確保が大変だったが地域住民の協力が得られた。

委 員 上堰に水が流れていないので除排雪で山になってしまう。総光寺沢の水を何とか上堰に流すよう方法を検討していただきたい。地域をよくするためだ。当然沿線にある住民の方々への説明と理解を得ることは必要となるが。

議 長 時間も経過したので本日はこれで閉会する。

4 閉 会